

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070600307		
法人名	有限会社 深英会		
事業所名	グループホーム サンフラワー 1ユニット		
所在地	群馬県沼田市新町452-1		
自己評価作成日	平成27年9月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成27年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、気付け優しさ、悔いなき言動、笑い合える信頼関係、みんなで築こうサンフラワーの運営理念を掲げ、毎朝の朝礼時に職員全員で唱和し、社長、管理者を始め全職員が理念の実践に取り組んでいる。地域密着型サービスの意義を職員全員が周知し地域の中にあるサンフラワーを目指す為、努力しています。又、利用者様が認知症であっても、地域の中で日々幸せを感じ生活出来る事を目指し、サンフラワーの基本方針である運営理念に沿ったサービスを提供できる様に日々努力しています。又、職員規約も毎朝、朝礼時に職員全員で唱和したり、月1回の勉強会を行い、職員教育に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

5ユニットを活かして、「改善箱」を設置して職員の意見を運営に採り入れる体制づくりをしている。また、理念やそのための目標・マニュアルにおいても作成したままではなく、定期的な見直しを通して、職員が参画そして共通理解を図るべき機会とし、人を育てる体制づくりがある。また、書式を変更しながら、日々のケアチェック表・ケース記録からケース記録のまとめ・おたよりなどきめ細かい記録を行い、今後は精査することを検討している。日々の支援においては、理念およびユニットごとの目標にむけた取り組みを定期的(年に1回)に確認し、15分会話を採り入れて、職員が業務にむきあうのではなく、利用者にもむきあう時間を意識的にもつよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に理念を唱和しユニット会議などの各会議の中で中身の確認をし具体的に話し合い、共有に努めている。更に、ユニット毎に具体的な年度目標を立て、理念の実現を目指している	「シート」を用いて理念の文言を分解して、その実現のために必要なことを、職員個々に考える機会としており、年に1回定期的に行っている。また、理念をもとにユニット毎に目標があり、年度末に目標の達成状況の評価して、次年度の目標づくりとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供110番になっている。地域のお祭りでは、みこしの休憩場所とし利用者、地域の方との交流を深めている。年間行事予定の見直し、作成しています	自治会に加入し、職員は道普請の作業に参加している。利用者も参加をすることもあるが、作業に影響がでる場合には、利用者とともに事前に事業所前の道路を清掃している。事業所のやきいも大会等の行事には、回覧板のほかポスティングを行い、多くの参加を呼びかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方への情報提供をしたり、援助の方法実践の報告をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、御家族様には、利用状況の報告や分かり易いテーマ(GHとは？など)年度始めに決め、利用者の様子、行動等の取り組みについての報告をし、御家族様より意見を伺っている	運営推進会議への家族の参加を呼びかけているがすまない状況のなかで、家族代表を選出して参加をしてもらう検討を行っている。会議において、災害時の名札(介護状況の表示)の提案をうけ、採り入れるなど意見を活かした取り組みをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは、各種書類の提出や生活保護の手続きなどについての相談や、行事、祭りなど外部の行事に参加する際駐車場の利用など相談し確保を図るなど市との協力関係を築いている	市の担当者とは、介護保険更新申請、生活保護利用者のケアプラン・医療保険更新申請時等に事業所の状況を伝え、指導・助言を受けている。市主催のお祭り等の行事への参加時は駐車場を確保して頂くなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通じて身体拘束をしないケアの司会と共有を図り、考え実践につなげている。「言葉による拘束」も視野に入れている。玄関、非常口の施錠は時間を決め開放している。その際、事故のない様安全に配慮している。各ユニットにマニュアルが設置されている	利用者の尊厳を損なわないケアを行っており、身体拘束はしていない。15分ごとの「所在確認表」を活用して、見守りを重視している。事業所は傾斜地にあり2階にあるため、玄関に下りる階段は施錠しているが、2階から外にでる入り口はボタンで開くようになっており、開閉できる利用者もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に行ってきた職員が全職員を対象に勉強会を実施。不適切なケアについて学び、虐待が見過ごされることがない様注意をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり、勉強会で学び理解し、必要な場合話し合いの場を設け支援できる様支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をし同意を得ている。疑問不明な点がある場合は随時対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回おたよりを作成し写真を貼り、家族に送ったり、他利用者様の一日の様子(ケース記録)に記入し送っている。面会時や受診時に家族に生活の様子などを知らせ要望や意見を聞いている	玄関に意見箱がある。月1回個別のおたよりとケース記録まとめ(毎日の記録)を送付して、家族との信頼関係構築に努めている。家族のどんな小さな意見でも活かしたいという事業所の考えと家族の言えない心情を考慮して、現在アンケートの実施を検討している。	検討中の家族アンケートを実施され、利用者・家族の運営に関する意見の聴取にむけた具体的な方策とその実施に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自発的改善箱を設置をし、改善策を社長を始め管理者、リーダーで話し合い改善しております	代表へ直通の改善箱が設置され、職員は記名・無記名で「自発的改善案」を提出することができる。用紙には、問題のほか、改善案も記載するようになっている。物品購入や設備に対する要望が職員から提案され、実現化している。その他、マニュアルの定期的(年に1回)見直しなど、職員の意見を活かした運営を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者の計らいの元、有給休暇、るクエスト休日、昇給、環境整備の改善等や個々の悩み相談などを聞く機会を設けております		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が自発的に働きながら勉強できる様、休暇等の就業に配慮しながら機会を提供し外部研修や資格取得に対し積極的に支援している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回幹部会議を行い他施設との交流を図り情報交換を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃のケアの中で常に要望に耳を傾け、受容出来る様相談援助を行い、信頼関係を構築している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族よりアセスメントを取り困っている事に耳を傾け受容出来る様、相談援助を行い信頼関係に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に、支援がすぐ出来る様に、何を必要としているかユニットで会議を開き良く考え対応している。対応しかねる場合は、御家族と連絡を取ったり、御家族の話により望んでいるケアを柔軟に行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で出来る事、出来ない事を見極め生活の中で役割を見つけ利用者様個人の能力により、洗濯物たたみ、食器洗い、畑仕事などをお誘いしたりレク月間予定表を作成し毎日レクリエーションを行う様支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連携をとり、無理のない様、面会、外出、受診などをお願いしている。面会時は談話室や居室にて会話されています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者に合いたい人がいる時はドライブを兼ねてその地に行ったり、馴染みの床屋へ行く事もあります。以前勤めていた職場の仲間や、以前入居していた施設の馴染みの方が定期的に面会へ来られている	友人とともに外出する方もいる。訪問理容を導入しているが、馴染みの床屋を希望する方がおり、支援している。また、まかないをしていた人には料理の味見をお願いしたり、得意な方からプランターでの野菜づくりの助言を得たりしている。その他、日課としている晩酌を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月レクリエーションの月間予定表を作成し、生活の中で毎日取り入れている。レクを通じて孤立する利用者がいない様支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もアフターフォローとして、いつでも相談に乗る体制を取っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で15分会話を取り入れたり、ご本人様からの訴えは勿論、言動、行動によりご本人様の意思本意を掘り下げ意味づけし意向の把握に努めている	利用者の思いを推測するなかで、家族からの情報や本人の反応などを重ねながら、推測するにあたる根拠があるかどうかを検討している。また、15分話を導入して、特定の利用者に限らず利用者とのコミュニケーションを図る機会づくりを行い、その結果は主観を交えずに観察事項として記録するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、家庭訪問し御本人様、御家族様より話を聞いたり、毎日、利用者と15分話を取り入れて御本人様の会話の中で把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の性格、行動等から一人ひとり記録に残し、過ごし方、心身状態や有する力を把握する為、ユニット会議を行い、職員が情報を共有し把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の状態等をまとめアセスメントし家族の要望や意見を聞き計画を立てCP会議で検討し作成している。必要に応じ、医師の意見も反映させて作成したり、6ヶ月の見直しと状態の変化に応じ随時見直ししている。ヒヤリハットの活用もしている。	4月から書式を変更して、モニタリングの記録がわかるように評価の欄を設けている。また、日々の記録においては、その人の支援が介護計画の目標に添って行われているかがわかるよう記録しており、それによって職員が介護計画の目標を意識するようになった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録、ケアチェック表、バイタル表など個々に記録に残し提供したサービス以外にも気づきを観察事項に記入し職員が情報の共有を行っている。ユニット会議でCPの見直しの際記録を活用し実践に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、御家族様の希望により外出、外泊、買い物、床屋など柔軟な支援に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、体験学習の中学生との交流や地域や村、沼田祭り、焼き芋会、バーベキューなど交流を図り利用者様が楽しく生活出来る様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人様、御家族様の希望するかかりつけ医への受診を第一に尊重し、他の病院や緊急の場合など御家族と連携し医療機関にて適切な受診が受けられる様支援している。御家族様の希望により往診者は月2回の往診を行っている	受診は、本人・家族の希望のかかりつけ医を支援している。受診は家族対応を基本としているが、家族の都合がつかない場合は職員が対応し、受診結果を家族に伝えている。協力医による月2回の往診や24時間医療機関と連携し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態の変化、バイタル測定を記録に残すと共に適切な受診が出来る様支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係と連携を取り情報の交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合やターミナルケアについては御本人様、御家族様の要望や希望を受け入れ出来る限り添える様支援している。チーム内では常に情報の共有に努めている。ターミナルマニュアルも作成し各ユニットに設置している。緊急時の対応としてマニュアルを作成している	家族・医師と相談しながら、三者で話し合い、急変時に気管切開が希望かどうかなどを確認しており、緊急時対応や予想される対応手順など、重度化した場合には、職員で統一した対応ができるようマニュアルを作成している。	早い段階から事業所の方針と体制を明確に家族に伝えることにより、重度化した場合の家族の理解また合意を得ることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受けており、急変時、事故発生に備えてマニュアルが各ユニットに設置してある。職員が把握に努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	4ヶ月に1回夜勤者、地域の方も含め避難訓練を行っている。職員の中で防火管理者所得者が4名います	年2回消防訓練を実施しており、運営推進会議とあわせて実施した結果、民生委員・区長・家族1名の参加があった。居室入り口に災害時に使用する名札をつけて、職員以外でも介助の状態がわかるようにしている。災害訓練への地域の方の参加を呼びかけてはいるが、実現にはいたっていない。	地域との関係性が築かれているなか、事業所の災害時の取り組みを理解してもらうとともに、協力体制が構築できることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には「さん」付けで呼んでいる。否定語を使わず分かり易い言葉掛けや傾聴し受容する様に心掛けたり、居室のドアを開ける方にはカーテンで中が見えない様工夫している	自身では気づきにくいことなので、スタッフ同士で注意しあい、着替えや入室についても羞恥心に配慮して支援している。常に「利用者様」という姿勢をもち、理念においても悔いなき行動を言動と改めて、利用者を尊重した支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望を伺い選択、自己決定出来る様な言葉掛け、場面作りに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の意見を優先し、外出の好きな方は週に1回ドライブ、外散歩、買い物好きな方はファッションセンターやスーパーなど希望に沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回の理容師さんの訪問や入居前のなじみの理容室に通われている。衣類等清潔に保てる様支援したり男性の利用者は、毎日ひげを確認し支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや、盛り付け、下膳、食器洗いなど利用者様と一緒にしている。献立表を基に利用者の食べたい物を聞き好みの食材に変えて調理している。又、月に一度ユニット順番で食べたい物の希望を聞き提供している	献立は、法人関係施設の栄養士がたて、それをもとにユニットごとに多少のアレンジをして提供している。目でも食事をたのしむために提供してからその状況にあわせて細かく切ったり、調味料を用意して好みにあわせたものをかけたりしている。利用者には、もりつけや味付けなどにかかわってもらえるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同系列施設の栄養士が献立表を作成し各ユニットへ配布している。又、一人ひとりの食べられる量や好き嫌いを把握したり食事量、水分量を記録に残し状態を把握している。又、食品衛生責任者を各ユニット1名に配置したり衛生推進者も取得した職員もいる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、案内、介助等一人ひとりに応じたケアを行い記録に残している。場合によっては歯科受診の支援も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録に残し一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導、介助を行い利用者の能力に応じて支援している。その為、失禁する利用者も減っている	便意・尿意があれば、トイレでの排泄を支援している。ケアチェック表に記録して、トイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化の良い食事や、水分補給、運動、散歩したりと、自然排泄が出来る様心掛けている。又、困難な利用者は主治医と相談し服薬で排便コントロールを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	訴えや要望に沿って支援している。入浴剤の使用やゆず湯など楽しみながら入浴できる様支援している	ユニットごとに入浴の支援方法が異なるが、基本的に嫌がる場合においても、3日以上はあけずに入浴を行い、清潔を保持している。入浴の状況は、家族に報告している。過去には、毎朝シャワーをしていた方もいる。ユニットにより浴槽の大きさが異なるため、状況にあわせ融通しあいながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動されていた使用者様が、休息出来る気配りや、病気等に応じて休めるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり、内服薬の説明を個人ファイルに保管し情報の共有をすると共に、目的、作用、副作用を理解し状態に応じて記録を残したり状態の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いのある生活にする為に、良くアセスメントを行い、調理の手伝いや下膳、食器洗い、盛り付け、土、外仕事など利用者様の力を活かしたり趣味を取り入れたり楽しみや気分転換の支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのニーズに答えて、スーパーへの買い物や外散歩、季節事(花見、祭り、紅葉など)にイベントを計画し支援している。又、御家族の協力し外食、自宅への帰宅、外食が出来る様支援している。又、天候に応じてレクリエーショングッズやカラオケ等楽しんで頂ける様支援している	天気の良い日は散歩に出掛けたり、栽培の花や野菜の手入れを職員と一緒にしている。日常的な買い物や季節毎の花見などに出掛けている。また、自宅への帰宅や馴染みの美容院等に家族と一緒に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1ヶ月のお小遣いを決め、自己管理できる利用者は、スーパーやファッションセンターへ買い物に出掛けています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月の近況を「おたより」に写真をつけたり、本人が色を塗ったり、名前を書いたり、お孫様の写真が送って来られたりしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には思い出の写真を貼り楽しい思い出を思い出して頂いたり、季節が混乱しない様に、その季節に合った物を飾り付けるなど工夫している。又、消臭剤を使用し臭いにも配慮している	月1回、日を決めてベッドの下など目の届かないところまで行う大掃除を行っており、清潔を保持するようにしている。ろうかには、一畳ほどではあるが畳のスペースに茶筆筒や黒電話が置かれたり、利用者の書道・行事の写真が掲示されたりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お仲間と良好な関係を保てる様、一人ひとり席の配置に配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドの使用したり、マットに布団を敷いたり、じゅんたんを敷いたりとその方に合ったケアを行っています。使い慣れたベッドやタンスや小物などが持ち込まれたり、写真など飾ってある。入居者と一緒に居室清掃、整頓を行ったりと心地よく過ごせる様工夫しています	居室は、使い慣れたベッドやタンス等が自由に持ち込まれ、家族の写真、本人の書道作品等が飾られている。また、身体状況に合わせて床に絨毯を敷いたり、マット・布団を敷く等、本人が居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や、段差の無い工夫や案内等目印をつけ安全に配慮し自立した生活ができる様支援している		